略　年　表

明治 10	●大森駅開かれる。荏原郡馬込村と称す。
大正 10	●馬込一帯のほとんどは田や畑。文士たちに先立って多くの画家や芸術家が居住していた。 ●山王の望翠楼ホテルで芸術家たちの集まり「大森丘の会」が開かれていた。（明治43～大正15） ●本郷や田端周辺に集まっていた文士たちが、馬込へ移り始める。 ●関東大震災が起こる。郊外にある馬込や山王への移住者が増えてくる。 ●文士たちの交流が盛んになり、尾崎・宇野家には馬込放送局なる呼び名がつく。 ●広津和郎らを中心に麻雀が大流行。
昭和 5 10	●「日本文学全集」の刊行をきっかけに、円本（1冊1円の全集物）時代始まる。 ●大衆文学が盛んになる。 ●衣巻家でダンスパーティーが開かれ、萩原朔太郎一家などがこれに加わり、恒例となる。 ●文士村のモガの間で断髪が流行。 ●静養、執筆のため、馬込文士たちの伊豆湯ヶ島への住来が多くなる。 ●馬込以外の文士との交流も広がる。 ●馬込に町制がひかれ、宅地化が進む。 ●文士たちの間で、浮気や離婚が相次いだり、住人の引っ越しや入れ替わりが頻繁になる。 ●大森相撲協会発足、「相撲大会」開かれる。 ●文士村の退廃的な雰囲気が影をひそめ文士たちも腰を据えて執筆に取り組むようになる。 ●文士たちの作品が次々と認められる。

主なみどころ

■大田区立郷土博物館

人文系博物館。大森貝塚を初めとする考古資料・歴史・民俗資料・海苔漁業関係資料などが展示されている。
また、特別展等の開催もしている。
開館時間　9時～17時　入館料　無料
休館日　月曜日（祝日は開館）　年末年始
☎3777－1070

■山王草堂記念館

日本最初の総合雑誌「国民の友」を発刊した徳富蘇峰が、大正13年（1924）から昭和18年（1943）までここに住んでいた。その旧宅「山王草堂」の書斎などが復元されている。又関係資料が展示されている。
開館時間　9時～16時30分　入館料　無料　休館日　12・29～1・3
☎3778－1039

■熊谷恒子記念館

現代女流かな書の第一人者で、皇后陛下への進講者と知られる熊谷恒子の旧居彼女の作品や愛用品を展示している。
開館時間　9時～16時　入館料　大人100円　小人50円　65歳以上と5歳以下は無料
休館日 月曜日（祝日は開館、翌日休館）年始年末
☎3773－0123

■川端龍子記念館

日本画の巨匠・川端龍子の作品を展示している。
開館時間　9時～16時30分
入館料　大人 200円　小人 100円
休館日　月曜日　年末年始
☎3772－0680

■池上本門寺五重塔

慶長12年（1607年）に徳川2代将軍秀忠が乳母正心院の発願成就のため建立して、池上本門寺に寄進。関東で最古の五重塔で、国の重要文化財に指定されている。

■尾崎士郎記念館

尾崎士郎の旧宅を改修し、平成20年（2008）5月に開館。書斎部分は、尾崎の生れ故郷である愛知県吉良町へ移築されているため、復元をして公開している。
開館時間　9時～16時30分
入館料　無料
休館日　年末年始、臨時休館日
☎3750－1611

※各館とも臨時休館日がありますので、お問合わせください。

馬込文士村 散策のみち

今では閑静な住宅地となっている山王・馬込の地に、大正末から昭和初期を中心とした時期、多くの文士や芸術家たちが住み、いつしか「馬込文士村」と呼ばれるようになりました。

■文士村レリーフ

◎このパンフレットを作成し、無料配布しています一般社団法人大森倶楽部は地元の有志により、明治39年に創立し、今年（平成26年）で108年になります。地元・城南地区の文化振興と地域の人々に役立つ文化講演会、研修会等を年々数回開催しています。是非御参加下さい。

日本で初めて鉄道が開通したのは（品川－横浜間）明治5年で大森駅の開設は明治10年です。当時は東口のみで、山王・馬込・新井宿・大井の人々は大変不便をしていました。当倶楽部は度々、鉄道院に西口開設を陳情していましたが、予算がない土地がないとの返事でした。
当倶楽部では会員が協力し資金（3,776円）を集め、土地も提供して大正7年に西口が開設されました。

昭和2年に池上通りが都市計画道路に指定され、道路の幅を15米に拡張する事になりました。池上地区と品川地区は早々と拡幅舗装整備が実施されましたが、大森駅周辺・八景坂は全然手付かずの状態でした。
当倶楽部は、昭和6年に会員145名の連名で東京府知事 手塚虎太郎殿に陳情書を提出した結果、工事が早速に行われました事は喜ばしいことです。

創立時、理事長3代のプロフィール

初代　児島　惟謙 こじま　いけん　（1837～1908）

天保8年、伊予象・宇和島に生れる。坂本竜馬　五代友厚らと交わる。明治28年大審院院長に就任。
大津事件では、司法の独立と裁判の神聖を守った貴族院議員となる。享年72才品川海晏寺に葬る。

二代　加納　久宜 かのう　ひさよし　（1848～1919）

上総一宮藩主・子爵立花種道の二男。
加納久恒の後嗣となる。明治2年に藩籍を奉還する。
鹿児島県知事（明治27年～33年）。産業組合・帝国農会・日本体育会等を作る。大正8年没、享年72才。

三代　清浦　奎吾 きようら　けいご　（1850～1942）

嘉永3年熊本に生れる。司法省に入り、第2次松方正義内閣の時に法相、以来法相、農商務相を歴任。貴族員議員、枢密院議長を経て、大正13年に総理大臣となる。
昭和17年没、享年92才。

一般社団法人 大森倶楽部
〒143-0023 東京都大田区山王2－2－11 TEL. 03－3777－3351
●会館は、大森駅西口隣りで事務所は2階です。　●休日：土・日・祭日（開館時間：10：00～17：00）

大田区馬込文士村散策の要所と所要見学時間目安

0分 ....移動時間の目安　☆印....お奨めポイント　10分 ....見学時間の目安
休 ....休憩に良い場所　有 ....有料　ト ....トイレ

※〈お願い〉ゴミはお持ち帰り下さい。

大森駅西口	1分	☆天祖神社（文士レリーフ）	10分	休	ト
大森駅西口	6分	☆貝塚公園（考古学発祥の地）	25分	休	ト
大森駅西口	20分	☆山王草堂（徳富蘇峰・庭園）☎03-3778-1039	40分	休	ト
天祖神社	2分	富岡美術館 ☎03-3771-1054	20分	有	ト
富岡美術館	7分	☆大田区立・山王会館 ☎03-3773-9216	25分	休	ト
富岡美術館	12分	☆善慶寺（義民六人衆遺跡） ☎03-3778-3434	15分		ト
善慶寺	13分	☆村岡花子記念館 ☎03-3771-0870（個人宅で、見学できる日が定められいるので予定を確認して下さい。）	25分	有	ト
善慶寺	12分	弁天池（厳島神社・公園）		休	ト
善慶寺	15分	☆大田区立・川端龍子記念館 ☎03-3772-0680	40分	有	ト
川端龍子記念館	10分	☆熊谷恒子記念館 ☎03-3773-0123	25分	有	ト
川端龍子記念館	25分	☆池上本門寺周辺 ☎03-3752-2331	90～180分	休	ト
熊谷恒子記念館	12分	☆大田区立郷土博物館 ☎03-3777-1070	40分		ト
郷土博物館	9分	☆万福寺（見所あり） ☎03-3771-2025	25分	休	ト
万福寺	25分	☆山王草堂（徳富蘇峰・庭園）☎03-3778-1039	40分	休	ト

○ **池上本門寺周辺**を散策の方は、バスを御利用下さい。

大堂 3分 五重の塔 1分 墓地（力道山他、有名人のお墓があります。）

大堂 3分 御廟所 3分 大坊 6分 梅園 有 15分 池上駅

● バスの御案内 ●

★バス停 ① ② ③ ④ は、JR大森駅西口を出て池上通りの手前右へ

- ■ 善慶寺（義民六人衆遺跡）へは ..... バス停 ① ② ③ 乗車 ..... 大森郵便局前 下車
- ■ 村岡花子記念館へは ..... バス停 ① ② ③ 乗車 ..... 元・大田区役所前 下車
- ■ 池上本門寺、大坊、梅園へは ..... バス停 ① ② ③ 乗車 ..... 池上・本門寺参道前 下車
- ■ 川端龍子記念館、熊谷恒子記念館へは ..... バス停 ④ 乗車 ..... 臼田坂下下車
- ■ 郷土博物館、万福寺へは ..... バス停 ④ 乗車 ..... 万福寺下車

★バス停 ⑩ は、JR大森駅西口を出て池上通りを渡り左へ坂下る

- ■ 山王草堂（徳富蘇峰・庭園）へは ..... バス停 ⑩ 乗車 ..... 馬込銀座下車

馬込文士村散策マップ

馬込文士村散策のみちしるべ

—散策コース（メインコース）
—散策コース（サブコース）
♀ バス停

●解説板が設置されている場所
●住居があった場所
●住居があった所に解説板が設置されている所
大田太郎　解説板が設置されている人

■文士の住居跡と説明板の設置場所は、必ずしも一致していない場合があります。
■文士等の居住跡は、現在別の方が居住しています。プライバシーの侵害とならないように配慮しましょう。

●発行／大森倶楽部　大田区山王2－2－11　●発行日／平成12年5月

100 200 400 600 800m

主な文士たち

山本周五郎
(1903～1967)
やまもと しゅうごろう Yamamoto Shugoro
小説家 a novelist

山梨県生。編集記者時代の【須磨寺附近】が出世作。少年少女向けの読物から、娯楽小説にも手を広げ、【樅の木は残った】【赤ひげ診療譚】【青べか物語】など多くの作品を残す。また、直木賞・毎日出版文化賞・文芸春秋読者賞などいずれも辞退している。

三好達治
(1900～1964)
みよし たつじ Miyoshi Tatsuji
詩人・翻訳家 a poet. a translator

大阪生。東大卒業後しばらくの間は翻訳に力を入れていたが、昭和5年の詩集【測量船】で抒情詩人として名を知られるようになる。また、詩論集や随筆集でも功績を残した。主な作品には、詩集【春の岬】、詩論集【萩原朔太郎】などがある。

小林古径
(1883～1957)
こばやし こけい Kobayashi Kokei
日本画家 a painter of Japanese painting

新潟県生。明治32年16才で梶田半古に入門し半古塾の塾頭となり、紅児会より日本美術院に入る。大正期に【異端】【竹取物語】【いでゆ】、昭和期には【清姫】【髪】【孔雀】など数々の名作を発表し、昭和19年東京芸大教授、昭和25年文化勲章受章、従2位勲二等旭日重光章受章。

尾崎士郎
(1898～1964)
おざき しろう Ozaki Shiro
小説家 a novelist

愛知県生。大正9年21才の時応募した【獄中より】が入選、小説家としてスタートする。【人生劇場】は青春編から望郷編まで7編に及ぶ大作で、彼のライフワークとなった。
他の主な作品では【篝火】【高杉晋作】などがある。

吉田甲子太郎
(1894～1957)
よしだ きねたろう Yoshida Kinetaro
児童文学者・翻訳家
a writer of children's books. a translator

東京都生。児童文学の翻訳を主な仕事としていたが、自らも創作をはじめ、【源太の冒険】【兄弟いとこ物語】などを出版。山本有三と親交があり、また昭和7年より明治大学教授をつとめた。

宇野千代
(1897～1996)
うの ちよ Uno Chiyo
小説家 a novelist

山口県生。懸賞小説で【脂粉の顔】が入選したのをきっかけに、作家として活躍。また、スタイル社を創立、日本初のお洒落雑誌【スタイル】を発行する。ただし活動の重点は作家業に置き、【色ざんげ】【おはん】などの作品を発表している。

山本有三
(1887～1974)
やまもと ゆうぞう Yamamoto Yuzo
小説家・劇作家 a novelist. a playwright

栃木県生。【真実一路】・【路傍の石】などの名作小説を書く一方、小中学校の国語教科書の編集にもたずさわり、又、参議院議員にもなるなど幅広い活動をした文化人であった。

室生犀星
(1889～1962)
むろう さいせい Muro Saisei
詩人・小説家 a poet. a novelist

俳号魚眠洞。石川県生。俳句や詩を学びながら放浪生活の後、詩誌【感情】を創刊。その後小説にも目覚め、詩人・小説家として活躍する。
主な作品には、【愛の詩集】【叙情小曲集】【幼年時代】【あにいもうと】【杏っこ】などがある。

石坂洋次郎
(1900～1986)
いしざか ようじろう Ishizaka Youjiro
小説家 a novelist

青森県生。教職の傍ら執筆活動を続ける。昭和11年【若い人】がベストセラーとなり、これをきっかけに上京。以後【青い山脈】、【陽のあたる坂道】など庶民的な作品で人気を集めた。

萩原朔太郎
(1886～1942)
はぎわら さくたろう Hagiwara Sakutaro
詩人 a poet

群馬県生。大正6年処女詩集【月に吠える】を出版、この年詩話会会員となる。詩作を続けると共に、【詩の原理】【純正詩論】【日本への回帰】などの詩論集を出し、詩の世界に影響を与えた。

北原白秋
(1885～1942)
きたはら はくしゅう Kitahara Hakushu
詩人 a poet

福岡県生。26才の時【朱欒】を創刊。詩集【邪宗門】で詩人として、また歌集【桐の花】で歌人として名を知られるようになる。
その後は童謡・民謡の世界にも創作の輪を広げ多くの功績を残す。

倉田百三
(1891～1944)
くらた ひゃくぞう Kurata Hyakuzo
劇作家・評論家 a playwright. a critic

広島県生。大正6年に【出家とその弟子】を発表し、一躍第一線作家におどりでた。
以後、【愛と認識への出発】などの評論集も書いている。

川端康成
(1899～1972)
かわばた やすなり Kawabata Yasunari
小説家 a novelist

大阪府生。19才の時初めて伊豆へ旅行して以来10年間湯ヶ島を行き来し、旅先で【伊豆の踊り子】などの執筆活動を行った。
その後【雪国】、【千羽鶴】【山の音】などを発表。文化勲章・ノーベル文学賞を受ける。